

地域経済動向調査報告書

平成 29 年度 第 2 四半期

<平成 29 年 7 月から 9 月まで>

平成 29 年 11 月

調布市商工会

<要旨>

全体の D I の分析から読み取れる市内小規模事業者の第 2 四半期の状況は、第 1 四半期と比べ売上単価・客単価の低迷により売上高は悪化傾向にあり、仕入単価の上昇が続く影響もあって採算面でも前年同時期を下回る結果にとどまっている。

次期第 3 四半期の見通しとしては、一定の売上増を見込むものの仕入単価の上昇により効果が減殺され、採算改善は限定的なものにとどまるとの見通しが多くを占めている。小売業においては、9 月に開業した調布駅前的大型商業施設の影響をマイナスにとらえる様子が見取れる。売上の中身を見ると、売上単価・客単価の低下が継続する一方で、売上件数・客数、売上数量の増加を期待するものになっている。

資金繰り、借入れの面では、目立った変化はない。

経営上の問題としては、前回調査時にあった人手不足に加えて事業採算面をあげる回答が上位を占めており、経営環境が依然として厳しい状況にあることが読み取れる。

なお、本報告書での D I（景気動向指数）は、調査項目ごとに有効回答数を分母として、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示している。具体的な算出方法は次のとおり。

$$D I = \frac{\text{増加} - \text{減少}}{\text{増加} + \text{不変} + \text{減少}} \times 100$$

1. 調査の概要

本調査は、当商工会会員である小規模事業者の業種構成比率を基に抽出した市内の製造業 4 社、建設業 6 社、小売業 10 社、飲食業 14 社、サービス業 16 社の小規模事業者計 50 社に対し、経営指導員および巡回相談員を通じ別紙「中小企業景況調査票」への記入によって実施した地域経済の動向を調査したものである。本報告書は、第 2 四半期（平成 29 年 7 月から 9 月まで）の調査結果をまとめたものである。

2. 今四半期の状況

今四半期（平成 29 年 7 月から 9 月まで）の状況を前年同四半期（平成 28 年 7 月から 9 月）と前四半期（平成 29 年 4 月から 6 月まで）との比較で調査した。また、一部の項目は今四半期の水準についても調査した。

2.1. 売上高の動向

2.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7~9 月比	0	50.0	△ 33.3	△ 10.0	7.1	0
H29. 4~6 月比	△ 16.0	△ 25.0	△ 16.7	△ 30.0	△ 7.1	△ 12.5

H28. 7~9 月比では業種ごとに好転と悪化のバラツキがみられたが、H29. 4~6 月比ではいずれの業種でも悪化の傾向にある。

2.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H28. 7~9 月比	△ 2.0	2.0	△ 4.2
H29. 4~6 月比	△ 14.6	△ 6.0	△ 8.3

売上を構成する要因別にその動向をみると、H28. 7~9 月比では特に目立った傾向は読み取れない。H29. 4~6 月比では、いずれの項目についても悪化の傾向が読み取れるが、なかでも単価の下落を指摘する回答が目立つ。

2.2. 仕入動向¹

	仕入単価
H28. 7～9 月比	△ 34. 7
H29. 4～6 月比	△ 22. 4

仕入単価の上昇（採算面では悪影響）を示す回答が多いが、H28. 7～9 月比より H29. 4～6 月比の方が改善を示すものとなっており、仕入単価の上昇が弱まる傾向が読み取れる。

2.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	△ 8. 0	25. 0	△ 66. 7	△ 30. 0	△ 14. 3	25. 0
H29. 4～6 月比	△ 14. 0	△ 25. 0	△ 66. 7	△ 20. 0	△ 7. 1	6. 3
H29. 7～9 月の水準 ²	8. 0	25. 0	16. 7	△ 10. 0	0	18. 8

H28. 7～9 月比でみると、サービス業で改善を示す一方で小売業、建設業で悪化の傾向が目立ち、全体を通じても悪化している。H29. 4～6 月比でみると小売業、飲食業で改善の傾向もあるが、逆にサービス業での伸び悩みが全体に悪影響を与えている。H29. 7～9 月の採算の水準としては、「黒字」と回答する業種も多いが小売業は依然として「赤字」で、業種ごとのバラツキもみられる。

2.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	△ 2. 0	25. 0	△ 33. 3	△ 20. 0	0	12. 5
H29. 4～6 月比	△ 6. 0	△ 25. 0	△ 33. 3	△ 20. 0	△ 7. 1	18. 8
H29. 7～9 月の水準 ³	△ 8. 0	25. 0	0	△ 40. 0	△ 14. 3	6. 3

全体を通じたD I では、H28. 7～9 月比では大きな変化はなかったが、H29. 4～6 月比では悪化を示す製造業、飲食業と好転を示すサービス業との間で業況の格差がみられる。H29. 7～9 月の業況の水準については、小売業、飲食業で「悪い」とする回答が目立ち、厳しい業況にあることが読み取れる。

H29. 7～9 月の状況の傾向を総じて分析すれば、売上高は H28. 7～9 月比並みを維持しているものの、H29. 4～6 月との対比では売上単価・客単価の低迷を主な

1 採算への影響の面から正負を表記した（「3. 次四半期の見通し」においても同じ）。

2 「採算（営業利益）」における「H29. 7～9 月の水準」は、「黒字」と答えた事業者の割合から「赤字」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

3 「業況（自社）」における「H29. 7～9 月の水準」は、「良い」と答えた事業者の割合から「悪い」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。過去との比較を問うものではない。

要因として悪化傾向にあり、仕入単価上昇の影響もあって、採算面でも依然として厳しい結果にとどまっていることが読み取れる。

2.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H28. 7～9 月比	△ 4.0	
H29. 4～6 月比	△ 6.0	9.1

資金繰りの悪化を指摘する回答もあるが、借入難度は「容易」とする傾向がみられる。

2.6. 人材

2.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	△ 2.1	25.0	0	△ 11.1	8.3	△ 12.5
H29. 4～6 月比	0	0	0	△ 11.1	16.7	△ 6.3
H29. 7～9 月の水準 ⁴	△ 27.7	△ 50.0	△ 33.3	△ 22.2	△ 8.3	△ 37.5

全体で見ると目立った変化はないが、H28. 7～9 月比および H29. 4～6 月比のいずれも飲食業で増加し、小売業およびサービス業では減少を示す結果となった。従業員の充足に関する H29. 7～9 月の水準としては、全業種を通じて人手不足を強く示す結果となっている。特に製造業、建設業、サービス業、小売業での人手不足が際立っていることが読み取れる。

2.6.2. 外部人材（請負・派遣）

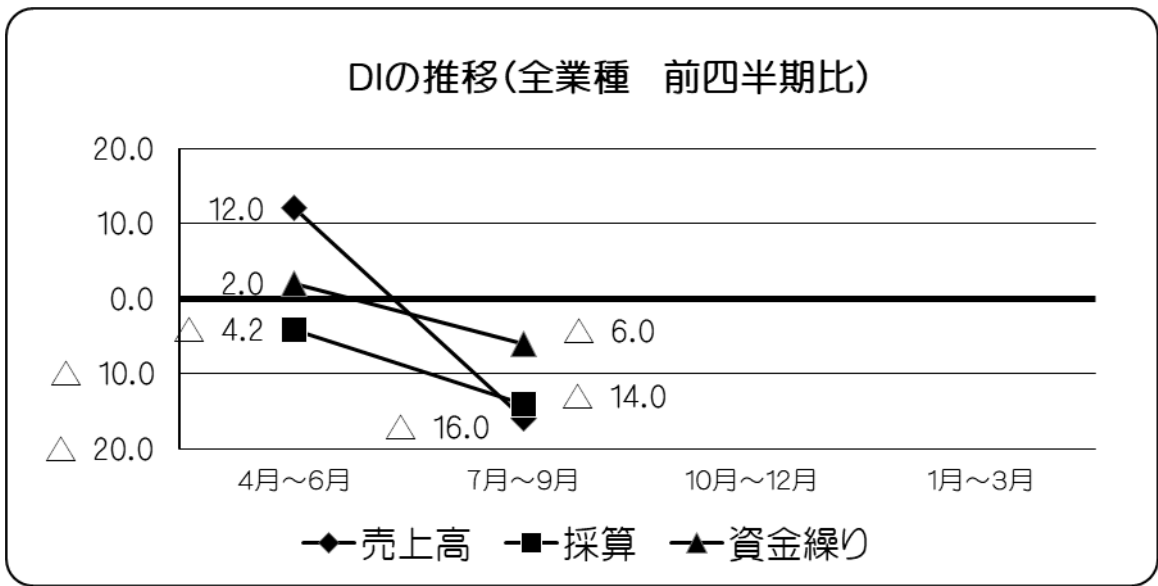
	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 7～9 月比	6.7	0	0	33.3	14.3	0
H29. 4～6 月比	3.2	0	0	0	14.3	0

特に目立った変化は読み取れない。

2.7. 推移

各四半期の全体の前四半期比の DI（売上高、採算、資金繰り）の推移は次のとおりである。

4 「従業員（含む 臨時・パート）」における「H29. 7～9 月の水準」は、「過剰」と答えた事業者の割合から「不足」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。



3. 次四半期の見通し

次四半期（平成 29 年 10 月から 12 月まで）の見通しを前年同四半期（平成 28 年 10 月から 12 月まで）と今四半期（平成 29 年 7 月から 9 月まで）との比較で調査した。

3. 1. 売上高の見通し

3. 1. 1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10~12 月比	12.0	0	16.7	0	7.1	25.0
H29. 7~9 月比	18.0	△ 25.0	33.3	0	14.3	37.5

全体として H28. 10~12 月比、H29. 7~9 月比とも改善を見込む回答が多いが、業種によるバラツキがみられる。なかでも、サービス業、建設業の強気の見通しが特徴的である。

3. 1. 2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H28. 10~12 月比	18.8	10.0	6.3
H29. 7~9 月比	4.2	16.0	16.7

今後の売上増の要因として、H28. 10~12 月比では売上単価・客単価の上昇を、H29. 7~9 月比では売上件数・客数および売上数量の増加を見込むものとなっている。

3.2. 仕入の見通し

	仕入単価
H28. 10～12 月比	△ 38.8
H29. 7～9 月比	△ 31.3

仕入単価の上昇を見込む回答が多く、悪化傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

3.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12 月比	10.2	△ 25.0	33.3	△ 22.2	14.3	25.0
H29. 7～9 月比	14.3	△ 25.0	33.3	△ 22.2	21.4	31.3

全体的には若干の改善を見込むものではあるが、製造業、小売業では消極的な見通しを示すなど、業種によるバラツキがみられる。

3.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12 月比	8.0	△ 25.0	16.7	△ 30.0	21.4	25.0
H29. 7～9 月比	16.0	△ 25.0	16.7	△ 20.0	21.4	43.8

サービス業、飲食業を中心に全体的には若干の改善が見込まれているが、製造業、小売業では悪化を見込む回答もあり、業種によるバラツキがみられる。

H29. 10～12 月の見通しを総じて分析すれば、H29. 7～9 月と同様、一定の売上増を見込むものの仕入単価の上昇により効果が減殺され、採算改善は限定的なものにとどまるとの見通しが多い。地域経済は回復基調にあるものの、その歩みは遅いものとみられる。

H29. 7～9 月期において H29. 4～6 月比の売上単価・客単価の低下が指摘されていて、次四半期での回復も厳しいとする見通しのなか、売上高の回復は売上件数・客数および売上数量の増加によるものと見込まれている。なお、飲食業、サービス業が回復を見込むなか小売業の業況の見通しは消極的である。

3.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H28. 10～12 月比	10.0	
H29. 7～9 月比	12.0	4.4

資金繰りが好転するとの見通しも多い。

3.6. 人材

3.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12月比	△ 6.4	25.0	0	△ 11.1	0	△ 18.8
H29. 7～9月比	△ 6.4	△ 25.0	0	11.1	△ 8.3	△ 12.5

サービス業、飲食業を中心に、人手不足の傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

3.6.2. 外部人材（請負・派遣）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12月比	△ 3.1	0	△ 16.7	25.0	△ 14.3	0
H29. 7～9月比	0	0	16.7	0	△ 14.3	0

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、飲食業では人手不足の傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

4. 設備投資

設備投資の動向について、今四半期（平成29年7月から9月まで）の実績と次四半期（平成29年10月から12月まで）の計画を調査した。

	実施／計画 していない	実施した / 計画している					
		建物 店舗	機械 設備 備品	車両・ 運搬具	付帯 施設	IT 機器	福利 厚生 施設
H29. 7～9月実績	82%	21%	10%	2%	4%	6%	2%
H29. 10～12月計画	78%	6%	10%	6%	2%	6%	0

設備投資についてはH29. 7～9月の実績、H29. 10～12月の計画とも、概ね8割の事業所が実施も計画もしていない。

5. 経営上の問題点

今四半期（平成29年7月から9月まで）に直面している経営上の問題点（重要度の高い順に3つ以内）を調査した。

1位の問題点	内 容 ⁵	1位～3位の問題点
14%	仕入（外注）単価の上昇	28%
2%	ニーズの変化への対応	28%
14%	従業員（含パート等）の確保難	26%
14%	売上（取引）件数の減少	24%
12%	設備・機器・店舗の老朽化	24%
6%	熟練技術者の確保難	22%
6%	需要の停滞	16%

「仕入（外注）単価の上昇」をはじめとした事業採算面の問題と、人手不足に関する問題をあげる回答が拮抗して上位を占めた。また、設備・機器・店舗の老朽化をあげる回答も目立ち、収益が限られるなかでの設備投資が経営上の課題となっていることもうかがわれる。

⁵ 「1位」、「1位～3位」のそれぞれ上位5位までの選択肢が含まれるように抽出し、「1位～3位」での上位のものから順に記載した。